



日 本 国 特 許 庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application:

1999年 9月29日

出 願 番 号  
Application Number:

平成11年特許願第275963号

出 願 人  
Applicant (s):

日本ビクター株式会社

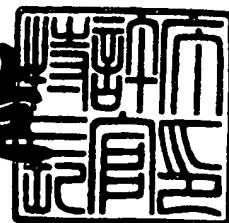
RECEIVED  
JUN 03 2002  
Technology Center 2600

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2000年 9月22日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3077071

【書類名】 特許願

【整理番号】 411000693

【提出日】 平成11年 9月29日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04B 1/00  
H04H 7/00  
G11B 20/10

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地      日本  
                        ビクター株式会社内

    【氏名】 田中      美昭

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地      日本  
                        ビクター株式会社内

    【氏名】 植野      昭治

【特許出願人】

    【識別番号】 000004329

    【氏名又は名称】 日本ビクター株式会社

    【代表者】 守隨      武雄

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 003654

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書      1

    【物件名】 図面      1

    【物件名】 要約書      1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 信号処理装置、伝送方法、伝送媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

オーディオパックを含んで所定のデータストリームが形成され、そのデータストリーム内のリアルデータの内部に設けられる所定の領域に、前記パック内に格納される所定圧縮方式のオーディオデータの前記所定の圧縮方式を示す識別情報を格納すると共に所定プロトコルのフォーマットでパケット化するパケット化処理手段を有することを特徴とする信号処理装置。

【請求項 2】

オーディオパックを含んで所定のデータストリームが形成され、そのデータストリーム内のリアルデータの内部に設けられる所定の領域に、前記パック内に格納される所定圧縮方式のオーディオデータの前記所定の圧縮方式を示す識別情報を格納すると共に所定プロトコルのフォーマットでパケット化された前記情報を受信し、デコードする手段を有することを特徴とする信号処理装置。

【請求項 3】

オーディオパックを含んで所定のデータストリームが形成され、そのデータストリーム内のリアルデータの内部に設けられる所定の領域に、前記パック内に格納される所定圧縮方式のオーディオデータの前記所定の圧縮方式を示す識別情報を格納し、所定規格のシリアルインタフェースに対応したパケットに変換して前記所定規格のシリアルインタフェースを通じて伝送するようにしたことを特徴とする伝送方法。

【請求項 4】

オーディオパックを含んで所定のデータストリームが形成され、そのデータストリーム内のリアルデータの内部に設けられる所定の領域に、前記パック内に格納される所定圧縮方式のオーディオデータの前記所定の圧縮方式を示す識別情報を格納し、所定規格のシリアルインタフェースに対応したパケットに変換して送信側から受信側に伝送することを特徴とする伝送媒体。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、DVDオーディオなどの多重化されたデータストリームを、シリアルインタフェースを介して伝送するためのパケットの信号処理装置、それを伝送するための伝送方法、伝送媒体に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

従来からデジタルコンテンツデータをデジタルインタフェース（特にシリアルインタフェースともいう）を介して伝送する技術が知られている。

例えば、特開平 1 0 - 2 8 5 2 3 4 号公報、特開平 1 1 - 4 5 5 1 2 号公報に開示されるように、コンテンツは分割されたMPEGトランスポートストリーム毎にヘッダを付加して伝送される。

上記のコンテンツは分割して伝送されるとパケット抜けを生じる恐れがある。そのため、ヘッダの情報を用いてパケット抜けを処理することが必要になる。

ところで、近年、DVDオーディオフォーマットのようにAパック、RTIパック、SPCT（静止画信号）パックを含むオーディオファイルとDVD（ビデオ）ファイルとが多重化されたファイル構造をもつコンテンツを伝送することが求められるようになった。

このように多重化されたファイル構造をもつデータストリームを転送する場合には、特に、デジタルインタフェースの段階で圧縮方式を特定できるようにフォーマット処理を行ってどのような復号処理が必要か予め通告することにより「選択的に」受信できるようにすることが重要な問題となっている。例えば、復号できないデータである場合、受信を中止するなどの対応を可能にするものである。

そこで、本発明は、上記の問題点に鑑み、これらの問題点を解決した音声信号などを含むDVDオーディオフォーマットなどに基づく多重化されたコンテンツ（ASID）を、デジタルインタフェースを介して伝送するための信号処理装置、伝送方法、及び伝送媒体を提供するものである。

【0 0 0 3】

【課題を解決するための手段】

本発明は上記目的を達成するために、以下の 1) ~ 4) の手段より成る。

すなわち、

【0004】

1) オーディオパックを含んで所定のデータストリームが形成され、そのデータストリーム内のリアルデータの内部に設けられる所定の領域に、前記パック内に格納される所定圧縮方式のオーディオデータの前記所定の圧縮方式を示す識別情報を格納すると共に所定プロトコルのフォーマットでパケット化するパケット化処理手段を有することを特徴とする信号処理装置。

2) オーディオパックを含んで所定のデータストリームが形成され、そのデータストリーム内のリアルデータの内部に設けられる所定の領域に、前記パック内に格納される所定圧縮方式のオーディオデータの前記所定の圧縮方式を示す識別情報を格納すると共に所定プロトコルのフォーマットでパケット化された前記情報を受信し、デコードする手段を有することを特徴とする信号処理装置。

3) オーディオパックを含んで所定のデータストリームが形成され、そのデータストリーム内のリアルデータの内部に設けられる所定の領域に、前記パック内に格納される所定圧縮方式のオーディオデータの前記所定の圧縮方式を示す識別情報を格納し、所定規格のシリアルインタフェースに対応したパケットに変換して前記所定規格のシリアルインタフェースを通じて伝送するようにしたことを特徴とする伝送方法。

4) オーディオパックを含んで所定のデータストリームが形成され、そのデータストリーム内のリアルデータの内部に設けられる所定の領域に、前記パック内に格納される所定圧縮方式のオーディオデータの前記所定の圧縮方式を示す識別情報を格納し、所定規格のシリアルインタフェースに対応したパケットに変換して送信側から受信側に伝送することを特徴とする伝送媒体。

【0005】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態につき、この好ましい実施例により説明する。

図 1 はその実施例に係る信号処理装置及び伝送方法の第 1 の実施例を示すブロック図、図 2 は図 1 のディスクプレーヤの処理を示すフローチャートである。

## 【0006】

図1の例では、家庭内情報ネットワークのセンターを担う送信装置であるディスクプレーヤ100と1つの受信端末装置である再生装置200がそれぞれデータ転送インタフェース(I/F)200a、200bを有し、データ転送I/F200a、200bが2本のIEEE1394規格のシリアルインタフェース188-1、188-2を介して接続されている。ディスクプレーヤ100は、例えばDVDオーディオディスクに記録されているオーディオ信号Aと静止画(スチルピクチャ)信号SPCTを読み出し、これをデータ転送I/F200a、シリアルインタフェース188-1、188-2を介して再生装置200に送信する。再生装置200はこのオーディオ信号Aと静止画信号SPCTをシリアルインタフェース188-1、188-2、データ転送I/F200bを介して受信して、再生する。このとき、一方のシリアルインタフェース188-1は受信又は送信用に選択的に使用され、他方のシリアルインタフェース188-2は送信専用を使用される。

## 【0007】

図2を参照して図1のディスクプレーヤ100の動作を説明する。まず、データ転送I/F200aと一方のシリアルインタフェース188-1とを受信モードに設定し(ステップS1)、次いでデータ転送I/F200a、2本のシリアルインタフェース188-1、188-2を介して再生装置200との間で双方向伝送を行う(ステップS2)。

次いで一方のシリアルインタフェース188-1を受信モードから送信モードに設定し(ステップS3)、次いで2本のシリアルインタフェース188-1、188-2を介して、転送レートが比較的高い信号を分散して再生装置200に送信する(ステップS4)。すなわち、この例では他方のシリアルインタフェース188-2は常に送信モードに設定される。

## 【0008】

送信データ的具体例としては、DVDオーディオディスクにはオーディオ信号Aの他にリアルタイムインフォメーション信号RTI(例えばテキストデータ)と静止画信号SPCTが記録されているので、オーディオ信号Aをシリアルインタ

フェース 188-1 を介して伝送し、リアルタイムインフォメーション信号 RTI と静止画信号 SPCT をシリアルインタフェース 188-2 を介して伝送する方法が考えられる。このように分散することにより前者のオーディオ信号 A と後者のリアルタイムインフォメーション信号 RTI と静止画信号 SPCT が同期再生される場合にはバッファ容量の制限を回避できるので多数の静止画、例えば、80 枚から 99 枚、を同期再生させることができる。なお、一方を受信モードに設定したステップ S1 において行う具体的な通信の例は、再生端末からのディスクの指定（リクエスト）、プレイコマンド等の操作指示である。

## 【0009】

なお、シリアルインタフェースは 2 本に限定されず、例えば、図 3、図 4 に示すように 4 本のシリアルインタフェース 188-1 ～ 188-4（及びデータ転送インタフェース I/F 200a'、200b'）を用いてもよい。すなわち、まず、シリアルインタフェース 188-1 ～ 188-4 の中の 1 本を受信モードに設定し（ステップ S11）、次いで、2 本のシリアルインタフェース 188-1、188-2 を介して再生装置 200 との間で双方向伝送を行う（ステップ S12）。次いで上記の受信モードのインタフェース 188-1 を双方向モードに設定し（ステップ S13）、次いで 3 本のシリアルインタフェース 188-2 ～ 188-4 を介して、転送レートが比較的高い信号を分散して再生装置 200 に送信する（ステップ S14）。

## 【0010】

すなわち、この場合には例えば 1 本のシリアルインタフェース 188-1 を受信又は送信に選択的に使用し、他の 3 本のシリアルインタフェース 188-2 ～ 188-4 を送信専用に使用するようにしてもよい。この場合には、例えば、オーディオ信号 A とリアルタイムインフォメーション信号 RTI と静止画信号 SPCT をそれぞれ 3 本のシリアルインタフェース 188-2 ～ 188-4 を介して伝送し、再生端末との操作に関するデータを 1 本のシリアルインタフェース 188-1 を介して相互に伝送する方法が考えられる。

## 【0011】

本実施例ではまた、IEEE 1394 規格の伝送方式に代えて IEC 958 規格

のオーディオ対応フォーマットにも適用することができる。

IEC958規格は、本実施例のIEEE1394規格のように双方向への伝送方式と異なり、一方方向のみの伝送方式であり、本実施例のように複数のシリアルインタフェースを用いて双方向に伝送する場合には適用し易いものとなる。

更に、上記IEC958規格のオーディオ対応フォーマットとは、IEEE1394規格におけるIEC958モードオーディオ対応フォーマットであってもよく、IEEE1394規格の様々なモードにも適用できる。

#### 【0012】

次に、図5を用いて課金フラグ、ゼロフラグ、ミュートフラグ、及びバックフラグの説明を行う。まず、送信側から受信側に対してデータの圧縮方式がDVDオーディオのロスレス方式であるか否かのフラグを送る。もし、このロスレス方式が復号できない場合、受信を中止することができる。また、コンテンツID又はその一部のパケットの種類に応じた「有料」、「無料」を示す課金フラグを各シリアルインタフェースを介して送信し、受信側ではこのフラグを見て、「有料」の場合、電子財布から課金を行う課金管理を行う（ステップS21）。また、複数本のシリアルインタフェースの内、いくつかが不使用の場合やデータが「0」の場合には、送信側から受信側に対してそのシリアルインタフェースを介してゼロフラグを送信し、受信側ではこのフラグを見て（ステップS22）、Yであれば受信処理しないようにし（ステップS23）、また、音声信号A以外のデータ、例えば静止画信号SPCTやリアルタイムインフォメーションRTIをあるシリアルインタフェースを介して送信する場合には受信側において音声信号用のD/Aコンバータにより雑音が発生しないように、送信側から受信側に対してそのシリアルインタフェースを介してミュートフラグを送信し、受信側ではこのフラグを見て（ステップS24）、Yであればミュート処理するようにする（ステップS25）。

#### 【0013】

また、音声信号A、静止画信号SPCT、リアルタイムインフォメーションRTI、ビデオ信号Vをあるシリアルインタフェースを介して送信する場合には受信側においてそれを即座にデコードして同期を取り易いように、送信側から受信側



に対してそのシリアルインタフェースを介して信号種類を識別するフラグ（パックフラグ）を送信し、受信側ではこのフラグを見て受信し（ステップ S 2 6）、終了であれば（ステップ S 2 7 で Y）終了する。

図 9 にステップ S 2 6 の具体的一例を示す。すなわち、信号種類別フラグがオーディオ信号（DVD オーディオディスクの A パック）であるか見て（ステップ S 3 1）、Y であれば A パックバッファに供給し（ステップ S 3 2）、パックフラグがビデオ信号（DVD オーディオディスクのビデオパック）であるか見て（ステップ S 3 3）、Y であれば V パックバッファに供給し（ステップ S 3 4）、パックフラグが RTI 信号（DVD オーディオディスクの RTI パック）であるか見て（ステップ S 3 5）、Y であれば RTI パックバッファに供給し（ステップ S 3 6）、パックフラグが SPCT 信号（DVD オーディオディスクの SPCT パック）であるか見て（ステップ S 3 7）、Y であれば SPCT パックバッファに供給し（ステップ S 3 8）、その他であればデコーダバッファに供給する（ステップ S 3 9）。

#### 【 0 0 1 4 】

そして、上述した ID、管理情報、及びフラグ情報は、次のような MPEG プロトコルのデータ内に収納して送信する。

図 6 は、その送信を行うための IEEE 1 3 9 4 規格のアイソクロナス (Isynchronous) 転送方式を説明するための図で、図 6 (a) はトランスポート・ストリームを示す。トランスポート・ストリームは、1 8 8 バイトの固定パケットで、ここでは DVD オーディオ規格によるオーディオデータのビット列 (A パック) や DVD ビデオ規格による画像データやオーディオデータなど (V パック)、あるいはまた SACD 規格 (スーパーオーディオ CD 規格) によるオーディオデータのビット列が配列される。

#### 【 0 0 1 5 】

図 1 2 から図 1 5 に、ここで配列される A パック、V パック、RTI パック、及び SPCT パックのデータ構造を示す。図 1 2 (A) に示すリニア PCM の A パックは DVD オーディオディスクのデータエリア内に記録されているものである。

このPCMのAパックは、2048バイト以下で構成され、その内訳は14バイトのパックヘッダとAパケットにより構成されている。Aパケットは17、9又は14バイトのパケットヘッダと、プライベートヘッダと、1ないし2011バイトのオーディオデータにより構成されている。

【0016】

プライベートヘッダは、

- ・ 8ビットのサブストリームIDと、
- ・ UPC、EAN、ISRC内の3ビットの保留領域と、
- ・ UPC、EAN、ISRC内の5ビットのUPC/EAN/ISRC番号と、
- ・ UPC、EAN、ISRC内の8ビットのUPC/EAN/ISRCデータと

- ・ 8ビットのプライベートヘッダ長と、
- ・ 16ビットの第1アクセスユニットポインタと、
- ・ 8バイトのオーディオデータ情報(ADI)と、
- ・ 0～7バイトのスタッフィングバイトと、

により構成されている。

【0017】

ADI(オーディオデータ情報部)は、

- ・ 1ビットのオーディオ・エンファシス・フラグと、
- ・ 1ビットの保留領域と、
- ・ 1ビットのステレオ再生モードと、
- ・ 1ビットのダウンミクスコード有効性と、
- ・ 4ビットのダウンミクスコードと、
- ・ 4ビットのグループ「1」の量子化ワード長「1」と、
- ・ 4ビットのグループ「2」の量子化ワード長「2」と、
- ・ 4ビットのグループ「1」のオーディオ・サンプリング周波数 $f_{s1}$ と、
- ・ 4ビットのグループ「2」のオーディオ・サンプリング周波数 $f_{s2}$ と、
- ・ 4ビットの保留領域と、
- ・ 4ビットのマルチチャネルタイプと、

- ・ 3ビットのグループ「2」のビットシフトと、
- ・ 5ビットのチャンネル割り当て情報と、
- ・ 8ビットのダイナミックレンジ制御情報と、
- ・ 16ビットの保留領域と、

により構成されているものである。

【0018】

また図12（B）に示すロスレス圧縮したパックド（圧縮）PCMのAパックは、2048バイト以下で構成され、その内訳は14バイトのパックヘッダとAパケットにより構成されている。Aパケットは17、22、9、14又は19バイトのパケットヘッダと、プライベートヘッダと、1ないし2015バイトのオーディオデータにより構成されている。

プライベートヘッダは、

- ・ 8ビットのサブストリームIDと、
- ・ UPC、EAN、ISRC内の3ビットの保留領域と、
- ・ UPC、EAN、ISRC内の5ビットのUPC/EAN/ISRC番号と、
- ・ UPC、EAN、ISRC内の8ビットのUPC/EAN/ISRCデータと

- ・ 8ビットのプライベートヘッダ長と、
- ・ 16ビットの第1アクセスユニットポインタと、
- ・ 8ビットの前方サーチポインタと、
- ・ 8ビットの後方サーチポインタと、
- ・ 16ビットの保留領域と、
- ・ 0～7バイトのスタッフィングバイトと、

により構成されている。

【0019】

図13に示すVパックはDVDビデオディスクのデータエリア内に記録されているものである。

このVパックは、2048バイト以下で構成され、その内訳は14バイトのパックヘッダとユーザデータパケットにより構成されている。パックヘッダは4バイ

トのバックスタートと、6 バイトの S C R と、3 バイトの M U X レート（多重転送レート）と、1 バイトのスタッフィングにより構成されている。

【 0 0 2 0 】

図 1 4 に示す R T I パックは DVD オーディオディスクのデータエリア内に記録されているものである。

この R T I パックは、2 0 4 8 バイト以下で構成され、その内訳は 1 4 バイトのバックヘッダと R T I パケットにより構成されている。R T I パケットは 1 7、9 又は 1 4 バイトのパケットヘッダと、R T I プライベートヘッダと、1 ないし 2 0 1 5 バイトの R T I データにより構成されている。

【 0 0 2 1 】

R T I プライベートヘッダは、

- ・ 8 ビットのサブストリーム I D と、
- ・ 2 バイトの保留領域と、
- ・ 8 ビットのプライベートヘッダ長と、
- ・ 4 ビットの保留領域と、
- ・ 4 ビットの R T I 情報 I D と、
- ・ 0 ～ 7 バイトのスタッフィングバイトと、

により構成されている。

【 0 0 2 2 】

図 1 5 に示す S P C T パックは DVD オーディオディスクのデータエリア内に記録されているものである。

この S P C T パックは、2 0 4 8 バイト以下で構成され、その内訳は 1 4 バイトのバックヘッダと S P C T パケットにより構成されている。S P C T パケットは 2 2、1 9 又は 9 バイトのパケットヘッダと、1 ないし 2 0 2 5 バイトの S P C T データにより構成されている。

【 0 0 2 3 】

再び、図 6 において、上述の 1 8 8 バイトよりなる固定パケットは、その先頭にソース・パケット・ヘッダと呼ばれるタイムスタンプが付けられる〔図 6（b）〕。受信側では、このタイムスタンプの時刻に合わせて音声や動画が再生され

るようになっている。

そして、これらのデータはそれぞれ 4 8 バイトの複数のデータ・ブロックに分割される [図 6 (c)]。その分割方法は、1 9 2 バイト×1 ブロック、9 6 バイト×2 ブロック、4 8 バイト×4 ブロック、2 4 バイト×8 ブロックの 4 通りである。

#### 【0 0 2 4】

次に、複数のデータ・ブロックがまとめられて、一つのアイソクロナス転送パケットが作られる。このまとめられ方は、1 2 5  $\mu$ s を 1 サイクルとし、この 1 サイクル毎に収まる数のブロックに順次まとめられ、そのブロックの先頭に後述する I E E E 1 3 9 4 用のパケットヘッダが付加される。図 6 (d) に 4 8 バイトづつに分割されたデータが 3 ブロック及び 2 ブロックにまとめられた状態が示されている。

#### 【0 0 2 5】

そして、このデータ転送を行う時には、図 7 に示すように、先頭にアービトレイションが付加され、これに続いてサイクルスタートパケットが配列され、更に、このサイクルスタートパケットに続いて所定間隔毎に 1 2 5  $\mu$ s のパケットが繰り返し配列されて転送されるようになっている。

#### 【0 0 2 6】

この 1 2 5  $\mu$ s 毎のパケットは、パケットヘッダと、データフィールドと、3 2 ビットのデータエラー検出符号とにより構成されている。

パケットヘッダは、

- ・ 1 6 ビットのデータ長情報と、
  - ・ 2 ビットの後述する C I P (Common Isochronous Packet) ヘッダの有無を示すタグと、
  - ・ 6 ビットのパケットが伝送されるチャネル割り当て情報と、
  - ・ 4 ビットの処理コードを示すトランザクションコードと、
  - ・ 4 ビットの同期コードと、
  - ・ 3 2 ビットのパケットヘッダエラー検出符号と、
- より構成される。

## 【0027】

データフィールドは、32ビットのCIPヘッダと32ビットのリアルデータのヘッダとリアルデータと32ビットのリアルデータのテールから構成される。リアルデータのヘッダ内とテール内の管理情報には、図8に示すように2バイト（16ビット）のアドレス00hからアドレスFFh（256種類）に相当する情報（16ビット）が順に記録され、これを繰り返すように構成される。

すなわち、

00h～07h；ISRC、

08h～0Bh；UPC/EAN/JANコード、

0Ch；SDCM（コピー管理情報）、

0Dh～2Fh；暗号化の附属情報、

30h～3Fh；使用許可期間、

40h；コンテンツID、

41h～46h；著作権保護期間、

47h～4Ah；プレーヤに関する情報、

4Bh～72h；テキストデータ、

73h～7Fh；ユーザID、

80h；DVDオーディオのロスレス圧縮フラグ、

81h～BFh；保留領域、

C0h～C7h；ディスク管理データ、

C8h～CEh；マスターテープ管理データ、

CFh～FFh；ソフトウェア生産の基本情報、

により構成される。このようにして16ビットの領域を用いて256番地の多数の情報を収納できる。

## 【0028】

また、図7に示すようにこのフォーマットによるASIDコンテンツであることを特定するID（8ビット）とフラグ領域が設けられる。IDはヘッダとテールにそれぞれ設けられる。IDは例えば、FFhである。

フラグ領域（8ビット）には、

- ・課金フラグ（3ビット）と、
- ・ゼロフラグ（1ビット）と、
- ・ミュートフラグ（1ビット）と、
- ・バックフラグ（3ビット）と、

により構成される。

【0029】

次に、図10はディスクプレーヤ100の具体的な実施例を示し、DVDオーディオディスクとDVDビデオディスクなどを再生可能なユニバーサルプレーヤを示している。ユニバーサルプレーヤでは制御部14の制御及び操作部15、リモコン16の操作に基づいてDVDオーディオディスク、DVDビデオディスク、DVD-RAMディスクなどのディスク1に記録されているデータがドライブ装置2により再生されて復調回路2Bにより復調される。DVDオーディオディスクやDVDビデオディスクから再生されたビデオ（V）パックとDVDオーディオディスクから再生された静止画パックは、静止画/Vパック・デコーダ3によりDVDデコードされてビデオストリームに変換される。なお、このビデオストリームは、元々CSS（コンテンツ・スクランブル・システム）方式でスクランブルされている。

【0030】

そして、図1に示すモニター用の出力端子55を介して外部の表示器（不図示）に表示させ、あるいはオーディオ出力として取り出す場合には、このビデオストリームが伸長/画像変換部4により伸長、デスクランブルなどされ、次いでD/A変換部5を介してVパックは、ビデオ信号/サブピクチャ信号/オーディオ信号として出力され、静止画SPCTパックは、ビデオ信号として出力される。他方、図1に示す再生装置200に転送する場合には2通りあり、第1の方法では、伸長/画像変換部4により伸長、デスクランブルなどされたデータがスクランブラ6によりCSS方式でスクランブルされ、次いで2本のデータ転送I/F7-1、7-2及びIEEE1394又はIEC958のシリアルインタフェースを介して再生装置200に転送される。第2の方法では、静止画/Vパック・デコーダ3によりデコードされたスクランブル付きのビデオストリームがデータ

転送 I/F 7-1、7-2 及び IEEE 1394 又は IEC 958 のシリアルインタフェースを介して再生装置 200 に転送される。

【0031】

また、DVD オーディオディスク、DVD-RAM ディスクから再生されたオーディオ A パックと、RTI パックは、A パック/RTI パックデコーダ 8 により DVD デコードされて DVD オーディオストリームに変換され、また表示信号生成部 11 を介して文字情報/リアルタイムテキスト情報 RTI に変換される。なお、この DVD オーディオストリームは、元々 CSS II 方式でスクランブルされている。

【0032】

そして、オーディオ信号を図 1 の出力端子 55 を介して取り出し外部のスピーカ（不図示）に供給する場合には、このオーディオストリームは PCM 変換/オーディオ信号処理部 9 により PCM 変換、デスクランブルなどされて PCM 信号に変換され、次いで D/A 変換部 10 を介して出力される。また、RTI を外部の表示器（不図示）に表示させる場合には、表示信号生成部 11 により変換された出力信号が供給される。他方、図 1 の再生装置 200 に転送する場合にもビデオの場合と同様に 2 通りあり、第 1 の方法では、PCM 変換/オーディオ信号処理部 9 により PCM 変換、デスクランブルなどされた PCM データがスクランブラ 12 により CSS II 方式でスクランブルされ、次いで 2 本のデータ転送 I/F 13-1、13-2 及び IEEE 1394 又は IEC 958 のシリアルインタフェースを介して再生装置 200 に転送される。

【0033】

第 2 の方法では、A パック/RTI パックデコーダ 8 によりデコードされてスクランブル付きの DVD オーディオストリームがデータ転送 I/F 13-1、13-2 及び IEEE 1394 又は IEC 958 のシリアルインタフェースを介して再生装置 200 に転送される。

また、上記データ転送 I/F で、図 7 で説明したヘッダがリアルデータ内に収納されるようにしている。

【0034】



また、図11は受信装置200の他の例で、図10に示すユニバーサルプレーヤ100により転送されたデータを再生する再生装置を示し、ユニバーサルプレーヤ100によりシリアルインタフェースを介して転送されたデータは、データ転送I/F21-1、21-2を介して受信される。データ転送I/F21-1、21-2は、ユニバーサルプレーヤ100により転送されたヘッダのフラグに基づいて制御部32によりDVDデコーダ22のバッファ22V、Aパック再生部23のバッファ23V、Vパック再生部24のバッファ24V、RTIパック再生部25のバッファ25V、及びSPCTパック再生部26のバッファ26Vのいずれかに分配する。

すなわち、図7に示す、上述したリアルデータのヘッダ32ビットの応用情報の3ビットのパックフラグによりAパックと識別した場合は、Aパック再生部23のバッファ23Vに、Vパックと識別した場合は、Vパック再生部24のバッファ24Vに、RTIパックと識別した場合は、RTIパック再生部25のバッファ25Vに、SPCTパックと識別した場合は、SPCTパック再生部26のバッファ26Vにそれぞれ分配する。もし、リアルデータのヘッダ8ビットの応用情報の3ビットのパックフラグが付加されていない場合は、DVDデコーダ22のバッファ22Vに供給される。操作部33は、プレイなどの操作を行うためのものである。また、リアルデータのヘッダ32ビットのコンテンツIDによりコンテンツを識別して課金処理が行われる。

ユーザIDは、特定のユーザにのみ供給されるときに使用され、ユーザを照合するために使用される。

#### 【0035】

このように、リアルデータのヘッダ8ビットにパックIDを設けることにより、音声信号A、静止画信号SPCT、リアルタイムインフォメーションRTI、ビデオ信号Vを受信する場合には受信側においてそれを即座にデコードできるため、例えば静止画SPCTと音声Aの同期を取るために予め多量の静止画信号を静止画バッファに取り込む必要がなくなり、従来バッファ容量により制限されていた静止画の同期再生の制限が低減される。また、ビデオ動画V（音声付き）とオーディオAが同時に取り出せ、同時に再生できるようになり、それぞれが別々

に再生しなければならない再生の制限が解消される。

また、ゼロフラグと、ミュートフラグと、課金フラグと課金情報（使用許可期間）を参照するようにしている。課金フラグと課金情報は、コンテンツの I D と共に課金管理部 3 4 で処理される。コピー管理情報 S D C M はこの場合、使用されない。

上記再生装置は、携帯端末であってもよい。

#### 【 0 0 3 6 】

また、上記各実施例では、受信装置を再生装置として説明したが、それに限らず、記録装置であってもよい。その場合には、さらにコピー管理情報が参照される。

また、上述の実施例におけるインタフェースは、複数接続可能なインタフェースであり、多量のデータをより高速に転送させることを念頭におき、複数のインタフェースを接続した構成で説明したが、それほど多量のデータを高速転送することを望まないならば、双方向転送可能な I E E E 1 3 9 4 規格のインタフェースを一個用いるようにしてもよい。

また、ディスクプレーヤは、光ディスクに限らず、ハードディスク（HDD）等の記録媒体であっても良い。

#### 【 0 0 3 7 】

##### 【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、シリアル伝送する場合に、DVDオーディオ等の所定の A S I D コンテンツの圧縮方式を識別する情報をリアルデータの所定の領域に格納して I E E E 1 3 9 4 等のパケットに変換して、転送するようにしたので、コンテンツの復号管理が正確に行えるなど、の効果を奏する。

##### 【図面の簡単な説明】

#### 【図 1】

本発明に係る伝送方法、信号処理装置（送信装置、受信装置）の第 1 の実施例を示すブロック図である。

#### 【図 2】

図 1 のディスクプレーヤの処理を示すフローチャートである。

【図 3】

第 2 の実施形態の伝送方法、信号処理装置（送信装置、受信装置）を示すブロック図である。

【図 4】

図 3 のディスクプレーヤの処理を示すフローチャートである。

【図 5】

図 1、図 3 の受信装置の処理を示すフローチャートである。

【図 6】

I E E E 1 3 9 4 規格におけるアイソクロナス転送方式を説明するための図である。

【図 7】

転送時のデータ配列の詳細図である。

【図 8】

リアルデータのヘッダ内の管理情報エリアに格納される情報の詳細図である。

【図 9】

図 5 のフローチャートの一部を詳細に示すフローチャートである。

【図 1 0】

図 1、図 3 のプレーヤの他の例を示すブロック図である。

【図 1 1】

図 1、図 3 の受信部の他の例を示すブロック図である。

【図 1 2】

D V D オーディオ規格によるオーディオデータの P C M の A パックのデータ構造である。

【図 1 3】

D V D ビデオ規格によるデータのデータ構造である。

【図 1 4】

D V D オーディオ規格によるの R T I パックのデータ構造である。

【図 1 5】

D V D オーディオ規格によるの S P C T パックのデータ構造である。

【符号の説明】

1 0 0 ディスクプレーヤ (送信装置)

2 0 0 再生装置 (受信装置)

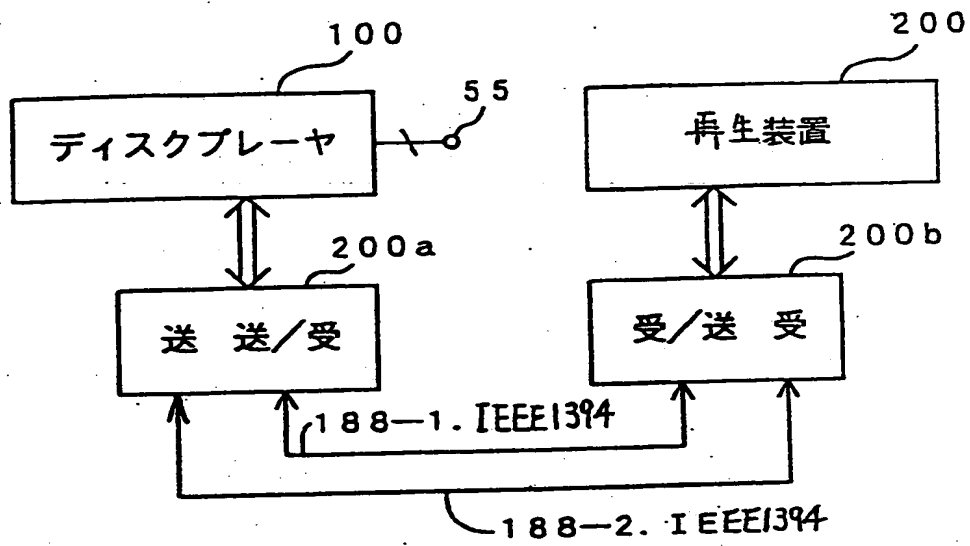
1 8 8 - 1 ~ 1 8 8 - 4 シリアルインタフェース

7 - 1 ~ 7 - 2、1 3 - 1 ~ 1 3 - 2、2 0 0 a、2 0 0 a ' データ転送インタフェース (送信手段)

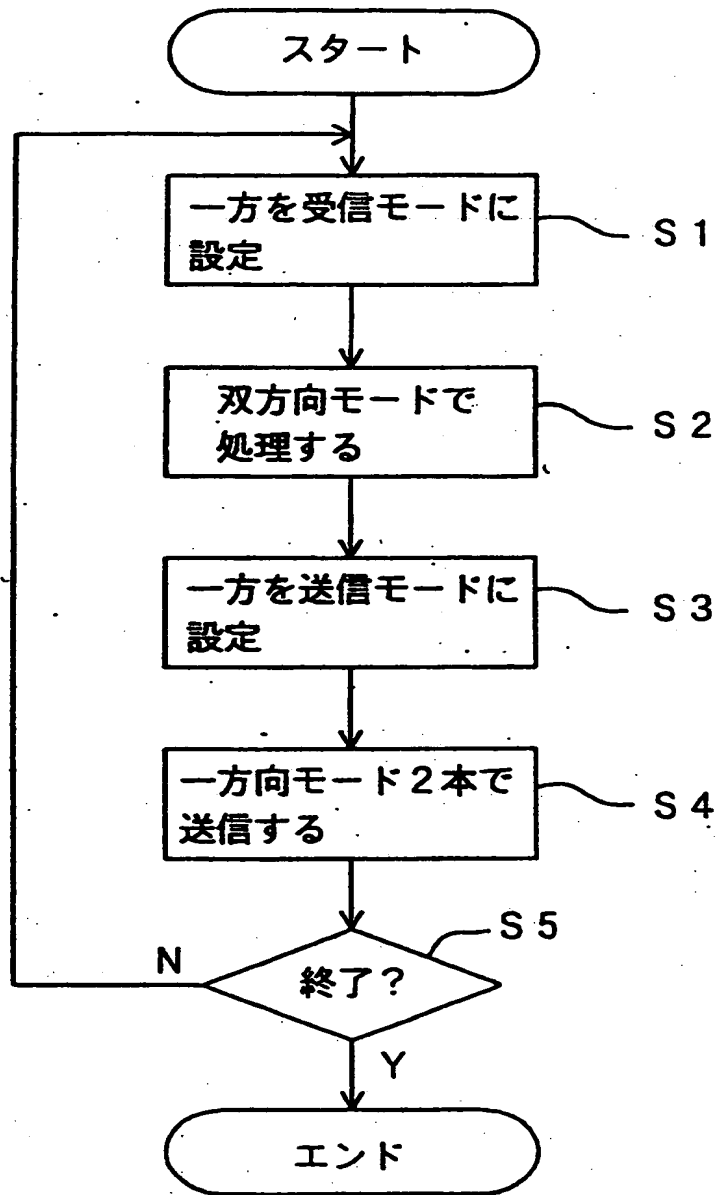
2 1 - 1 ~ 2 1 - 2、2 0 0 b、2 0 0 b ' データ転送インタフェース (受信手段)

【書類名】 図面

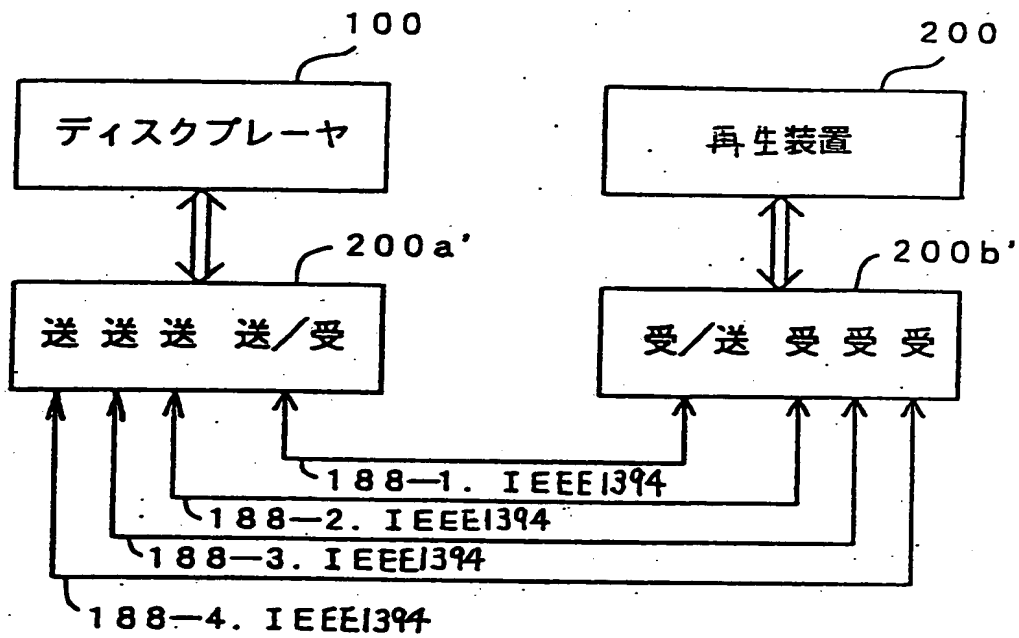
【図 1】



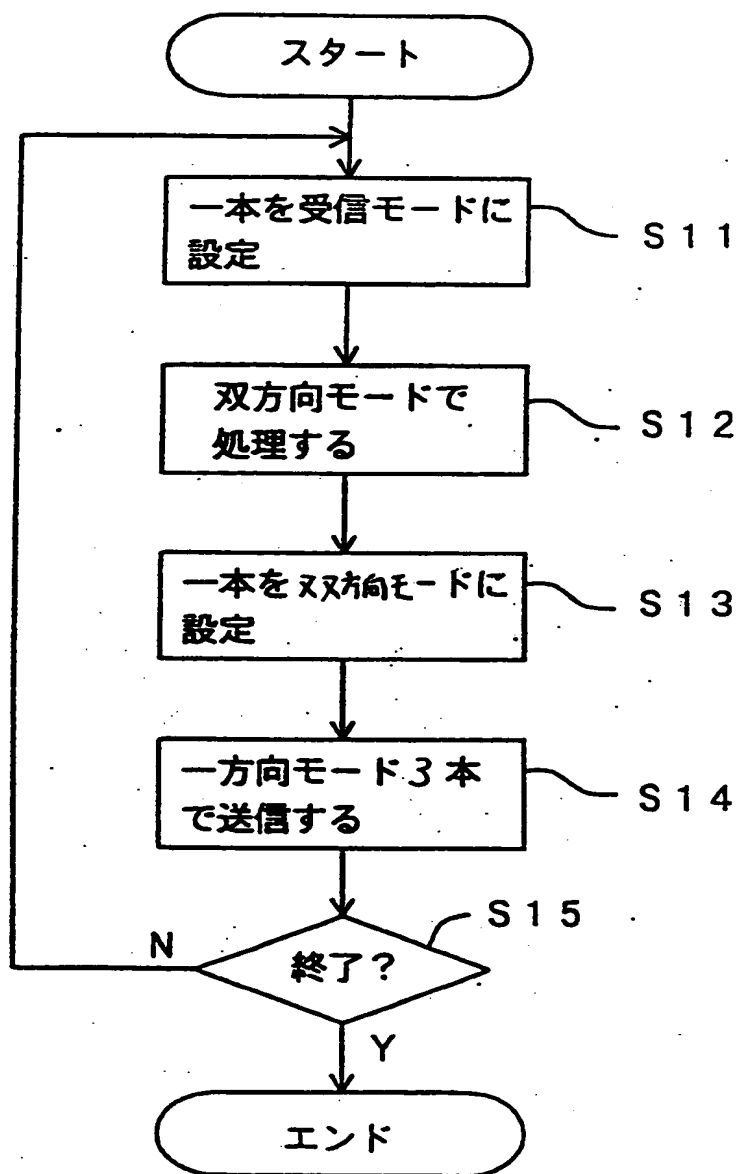
【図 2】



【図3】



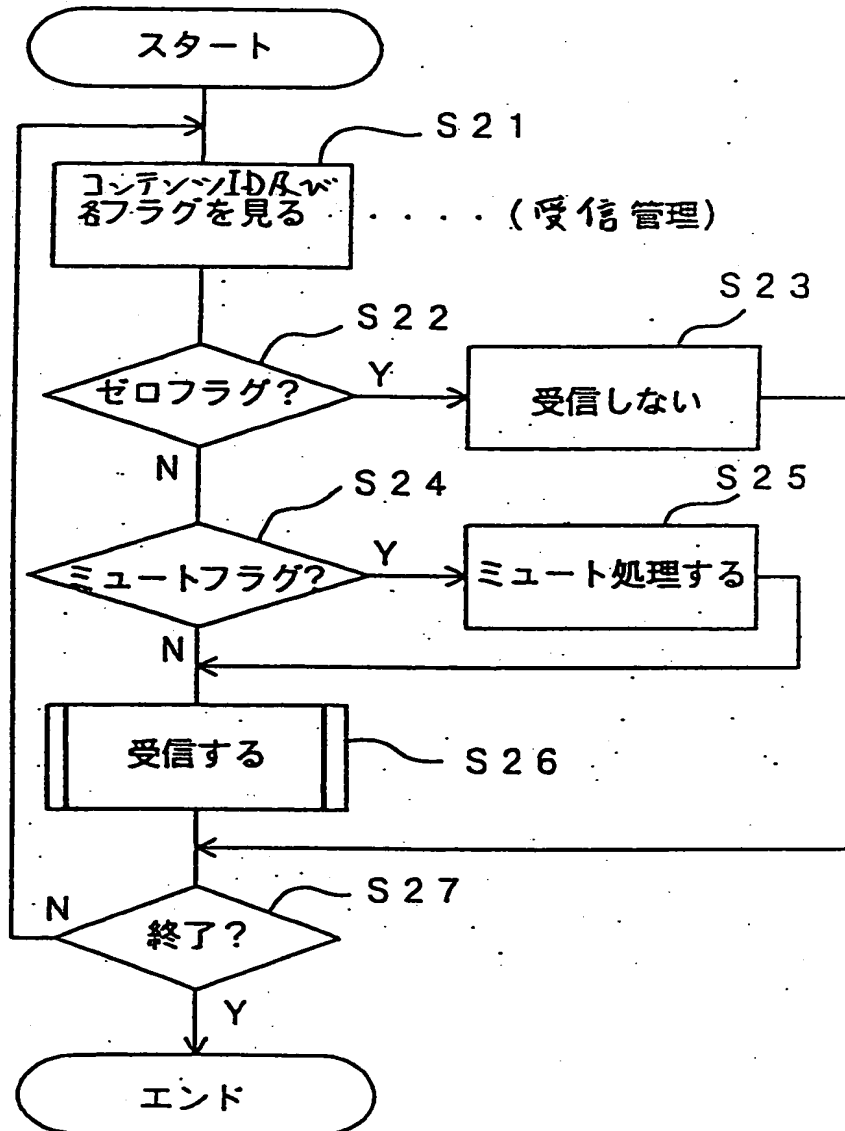
【図4】



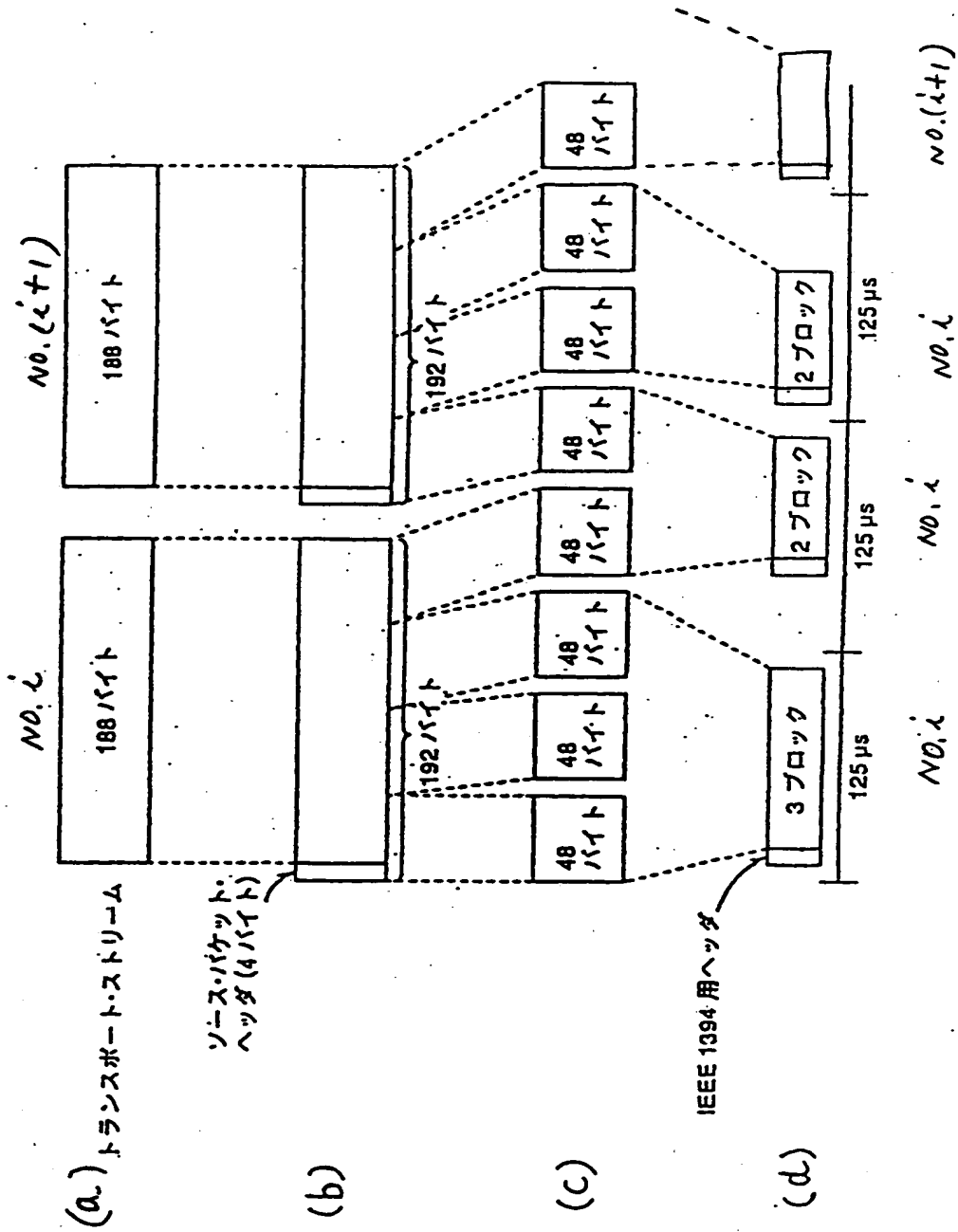


【図 5】

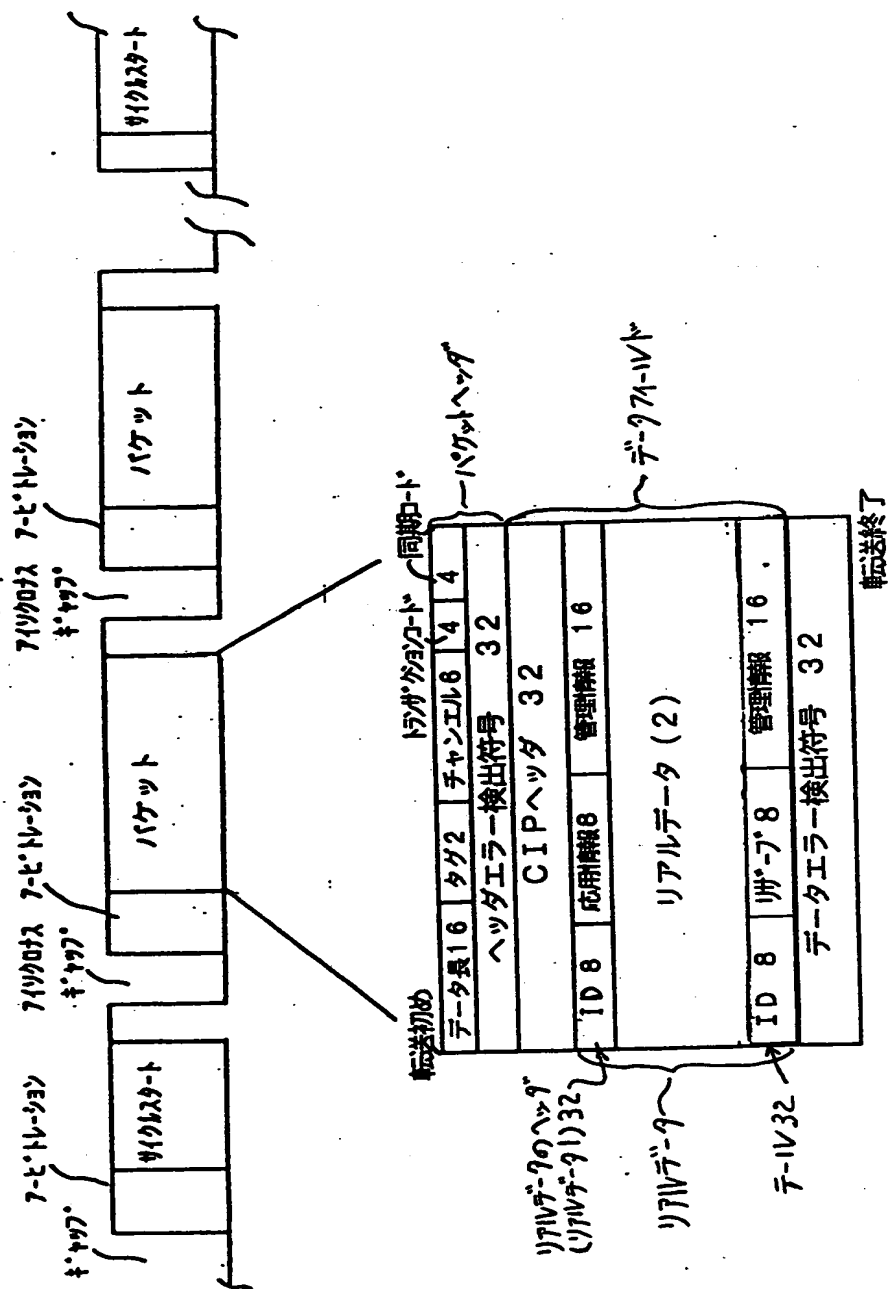
コピー可能である場合



【図 6】



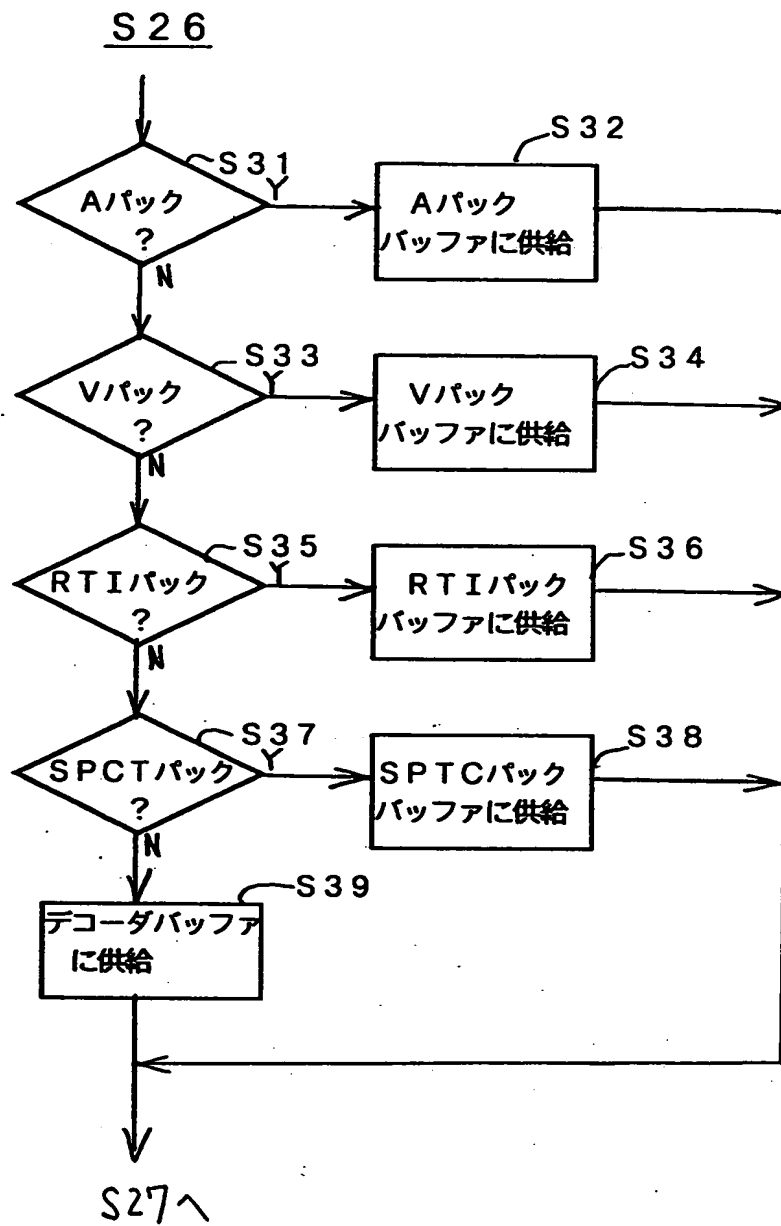
【圖 7】



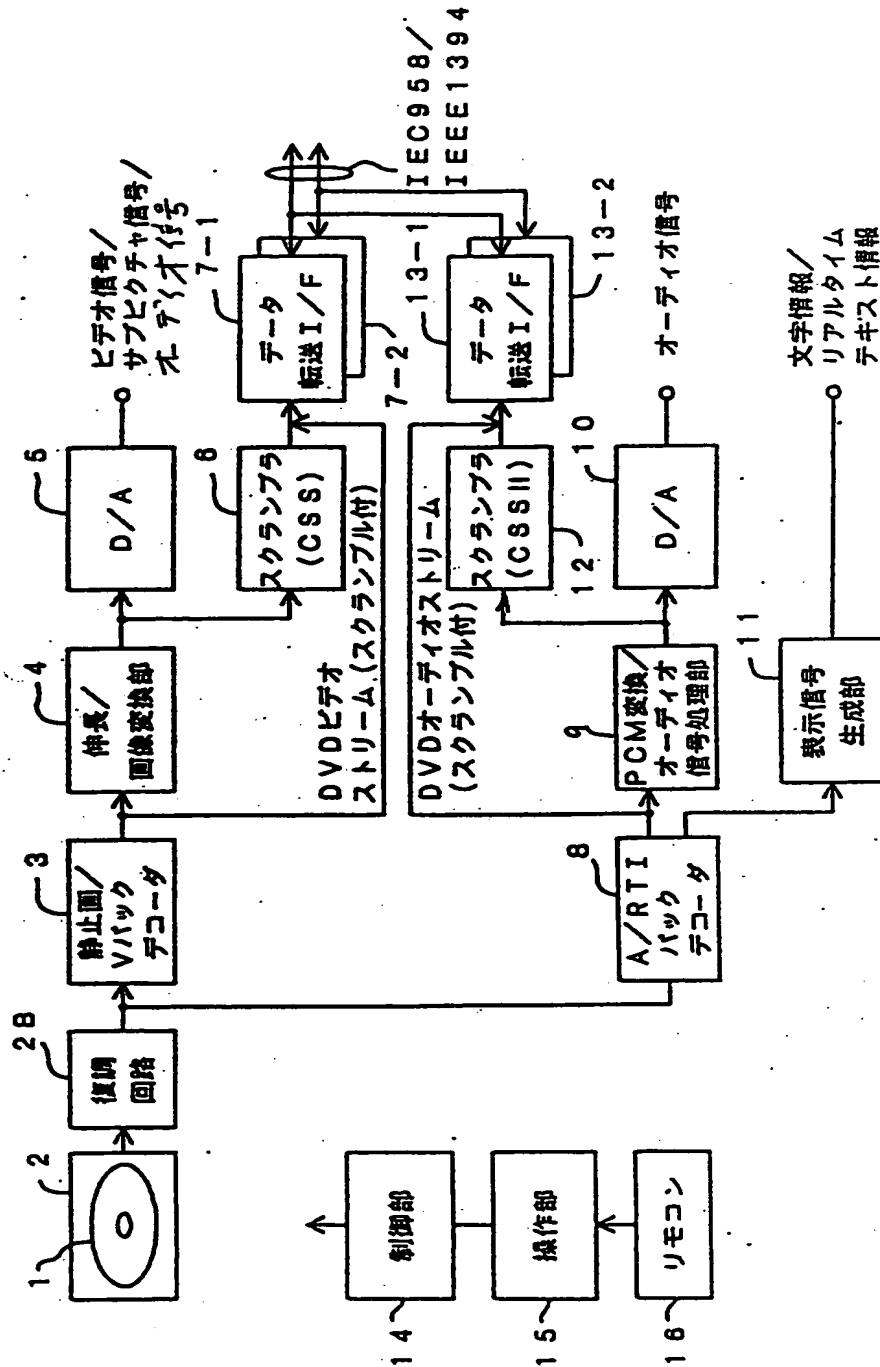
【図 8】

アドレス	情 報 (16ビット)	アドレス	情 報
7F 73	ユーザID	FF . . CF	ソフトウェア生産の 基本情報
72 . . 4B	テキストデータ	. C8	マスターテープ管理データ
4A 47	プレーヤに関する情報	C7 . C0	ディスク管理データ
46 41	著作権保護期間	BF . . . . . . 81	保留領域
40	コンテンツID		
3F 30	使用許可期間		
2F . 0D	暗号化の付属情報		
0C	SDCM		
0B 08	UPC/EAN/JAN コード		
07 00	ISRC		
		80	ペックトPCM777

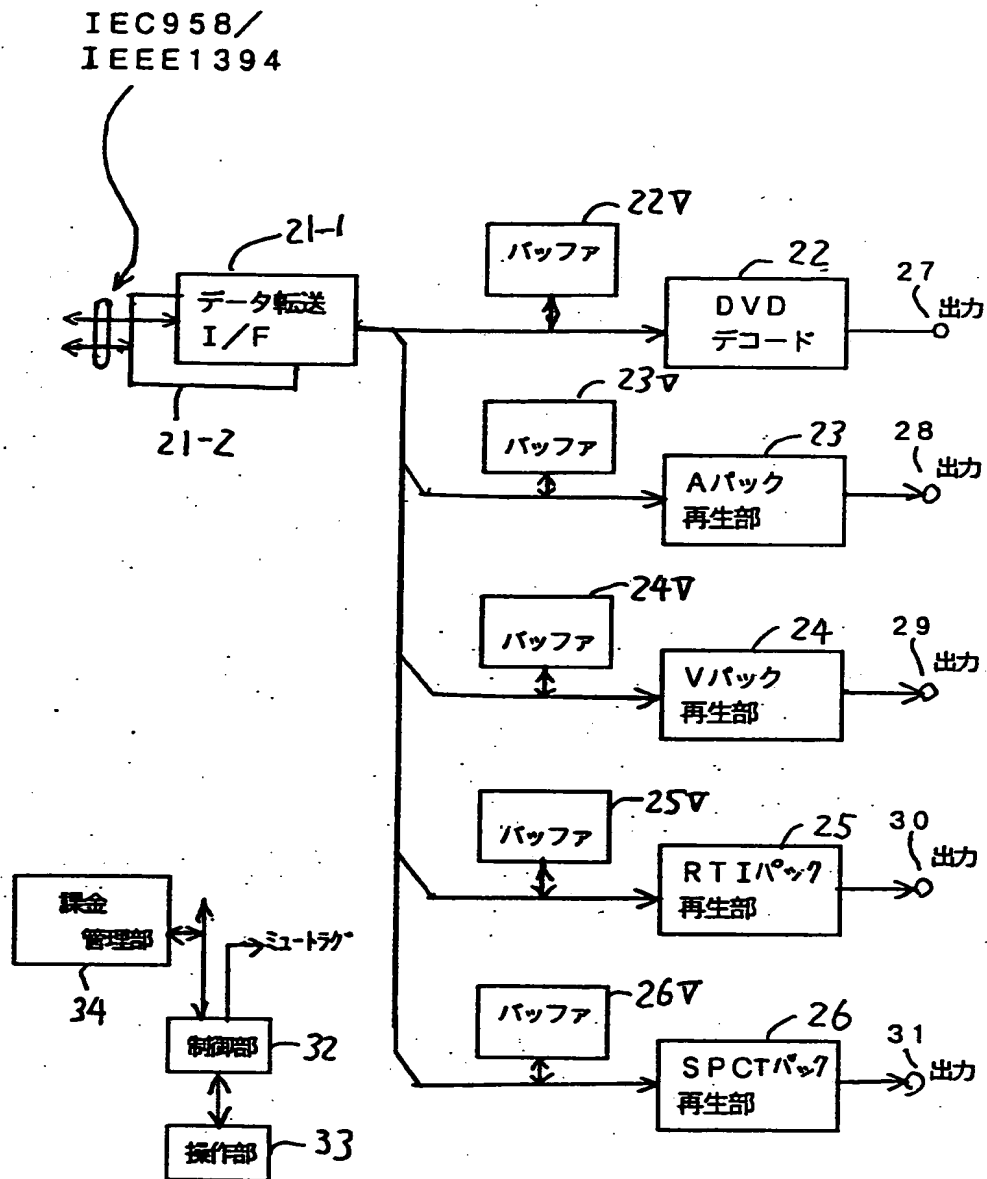
【図 9】



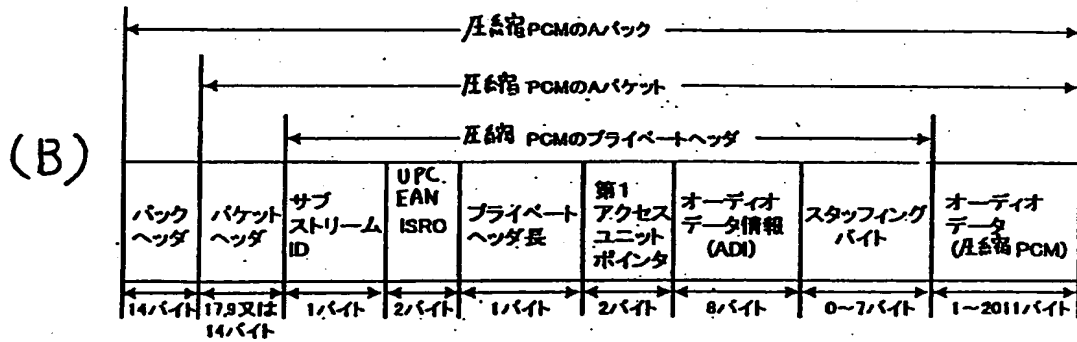
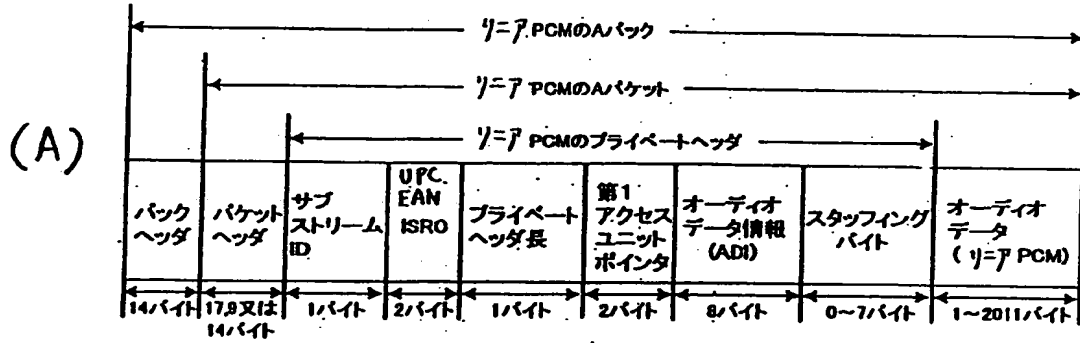
【図 10】



【図 11】

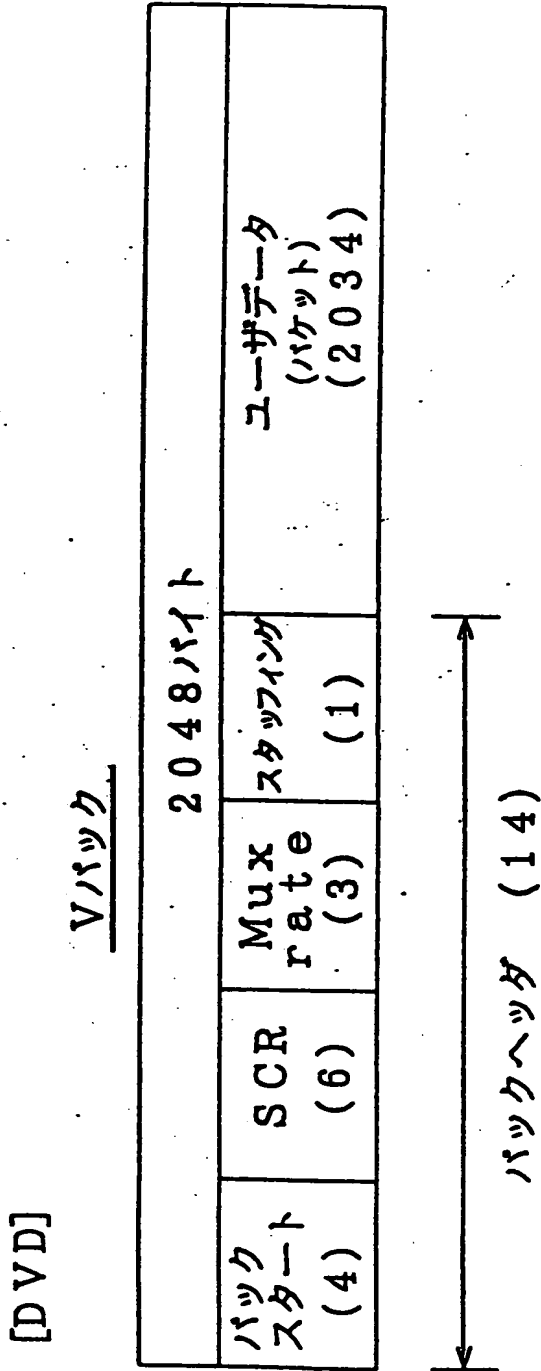


【図 1 2】

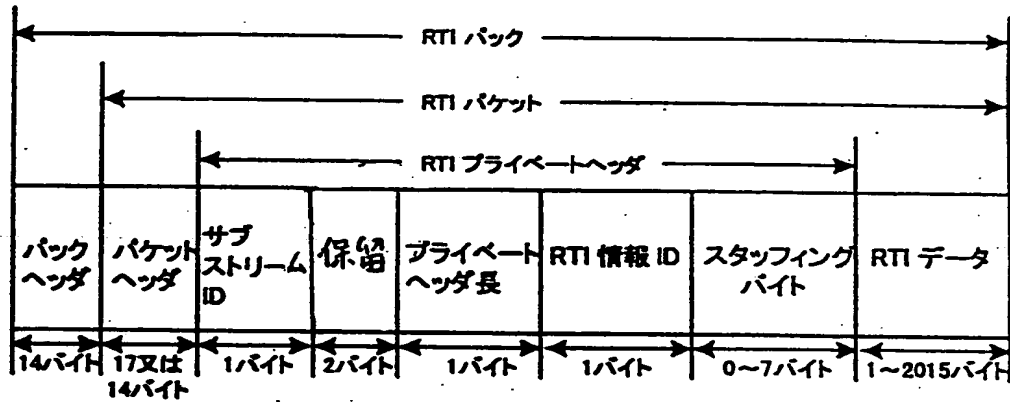




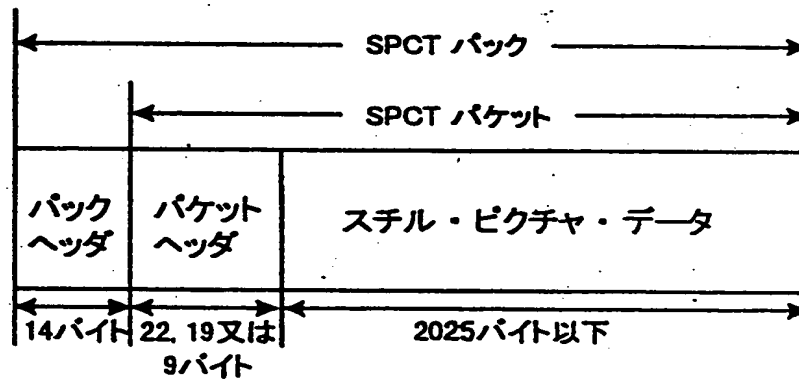
【図 1 3】



【図 1 4】



【図 1 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 コンテンツの復号管理を正確に行えるようにする。

【解決手段】 送信装置であるディスクプレーヤ 1 0 0 と受信装置である記録装置 2 0 0 が 2 本の I E E E 1 3 9 4 規格のシリアルインタフェース 1 8 8－1、1 8 8－2 等を介して接続し、例えば、オーディオパックを含んで所定のデータストリームが形成され、そのデータストリーム内のリアルデータの内部に設けられる所定の領域に、前記パック内に格納される所定圧縮方式のオーディオデータの前記所定の圧縮方式を示す識別情報を格納し、I E E E 1 3 9 4 規格のシリアルインタフェースに対応したパケットに変換して前記シリアルインタフェースを通じて伝送するようにする。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004329]

1. 変更年月日 1990年 8月 8日

[変更理由] 新規登録

住 所 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地

氏 名 日本ビクター株式会社